

探究的な学びを可能にする英語授業モデルの提案

ー 思考力・判断力・表現力を育み、自立した学習者を育成するために ー

教科教育高度化分野 (19220922) 渡 部 貴 敬

本研究の目的は、生徒が興味を持って取り組むことができ、かつ思考力・判断力・表現力を高めることができる、探究型学習を活かした英語の授業を開発することである。生徒のニーズを意識した学習者中心の授業作りをすることで学習への動機づけを強化すること、テーマについてじっくり考えることで深い学びを得ること、領域統合型の活動を通して確かな英語力を身に付けることを目指した。

[キーワード] 中学校英語、全国学力・学習状況調査、探究型学習、新学習指導要領

1 問題と目的

(1) 中学校の英語教育の現状と課題

平成 31 年度 (令和元年度) 全国学力・学習状況調査の結果が公開された。英語は本年度から導入されたが、集計データの中で特に目を引くのが「書くこと」に関する問題である。国立教育政策研究所 (2019) は、この問題の趣旨を「与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる」としているが、同研究所の分類・区分集計結果によると平均正答率は 1.9% であり、他の区分と比較して顕著に低いことが明らかである。

この調査・集計から推察できることは、中学生が授業において、この調査が求めているような能力を培う活動に十分かつ継続的に取り組んでいないのではないかということである。

これまでの英語の授業を振り返ってみると、言語材料を中心に置きそれをいかに活用するかということを考えてきた。使い方や正確性は意識して指導してきたが、学習した表現をどのような文脈で使うと効果的であるか、どのように文章を構成すると思いや考えを上手に伝えることができるかといったことにはあまり重点を置いてこなかった。

また、授業において単元で扱われるテーマを深く考えさせたこともあまりなかった。例えば、『NEW HORIZON English Course 3』では、単元のテーマとして日本文化、環境問題、経済格差、防災など多彩な社会的テーマを取り上げているが、実際の授業でこれらのテーマは、リーディングパ

ートにおいて読み取りの一部として扱う程度であったのが現状である。

中学生が授業を通して身につけたことが調査の結果として表れているのであれば、求められている思考力・判断力・表現力を伸ばすためには、これまでの授業の在り方を改善していくことが喫緊の課題である。

(2) 本研究の目的

以上の問題意識を持って授業改善を考えていくとき、手がかりになるのが山形県が推進している「探究型学習」である。しかし、「英語の」探究型学習についてはいまだ実践例が少ないのが現状である。現場の教師に英語の探究型学習について尋ねても、「理科や社会ならわかるが、言語習得を前提としている英語でそのような学習ができるイメージが湧かない」「スキルが身に付かないうちに探究はできないのではないか」といった答えが返ってくることが多い。

そこで本研究では、英語における「探究」がどのようなものであるかを探りながら、生徒が興味を持って取り組むことができ、かつ思考力・判断力・表現力を高めることができる授業を開発することを目的とする。

2 中学生の探究型学習に対する意識調査

(1) 方法

①対象

山形県内 A 中学校の 3 年生 129 名を対象にした。

②手続き

(2) 結果(一部抜粋)と考察

表1 探究型学習は楽しいと感じる

	人数	割合
1 全く思わない	1	1%
2 あまり思わない	3	2%
3 やや思わない	8	6%
4 やや思う	57	44%
5 かなり思う	40	31%
6 完全にそう思う	20	16%

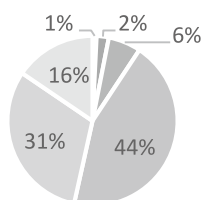


图 1

肯定的意見が 91%あり、探究型学習に概ね好感を持っていることが分かる。調査対象校は全教科で探究型学習を取り入れた授業を行っており、学習の仕方が生徒に浸透していると思われる。

表2 英語の授業において探究型学習を行えば文法や単語などの知識も身につくと思う

	人数	割合
1 全く思わない	2	2%
2 あまり思わない	7	5%
3 やや思わない	19	15%
4 やや思う	49	38%
5 かなり思う	32	25%
6 完全にそう思う	19	15%

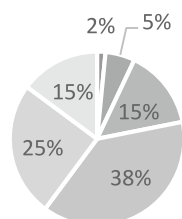


图2

肯定的意見が多いが、否定的意見も 22%ある。探究的な学習を中心に据えると、文法や表現を身に付けるといった英語の基礎の部分がおろそかになるのではないかという生徒の不安が表れていると思われる。

表3 英語の授業において探究型学習を行えば外国人と会話をする時にも役立つと思う

	人数	割合
1 全く思わない	1	1%
2 あまり思わない	6	5%
3 やや思わない	11	8%
4 やや思う	28	22%
5 かなり思う	44	34%
6 完全にそう思う	38	30%

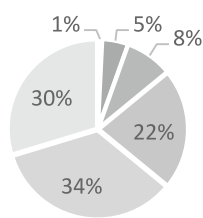


图 3

「かなりそう思う」「完全にそう思う」の合計が64%ある。課題意識を持ち主体的に学習に取り組むことは、実際に外国人と話す時に求められるスピーキングの能力を伸ばすことができると考え

ている生徒が多いと考えられる。

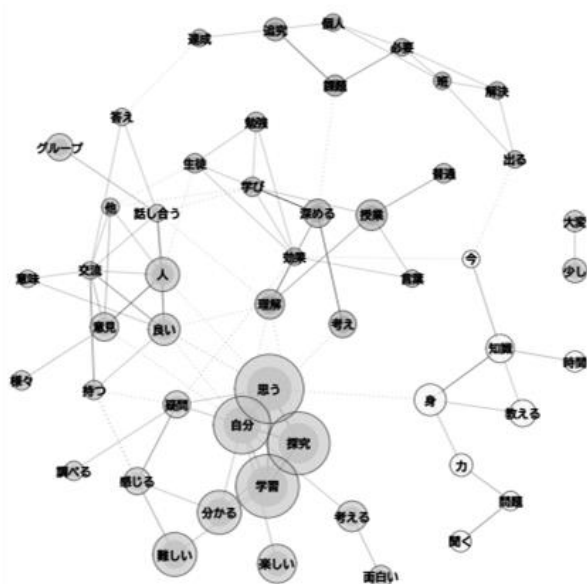


図4 探究型学習について思っていることを自由に書いてください

自由記述を分析するにあたっては、分析者の恣意的・主観的要素が混入しない、客観性が担保される方法としてテキストマイニングの手法を用いた。分析には KH Coder (Version: 3.Alpha.17g) を用いた。

この分析においては、学習内容の理解と学習者の達成感について、知識の習得について、協同的な学びの効果や価値について、課題の追究の仕方と解決方法について、「深い学び」について、探究的な学びの困難さについて示す6つの意味のまとまりがある。ここから考察できることは、疑問を持ち課題を深く追究することは難しさの中にも楽しさや達成感があり、内容の理解や習得に良い効果を及ぼすと考えている生徒が多いということである。また、課題の解決においては、協同的に取り組むことが効果的であることを示唆している。

3 授業提案

(1)授業を改善するためのポイント

白井(2012)は、外国語学習に成功する学習者は学習に対する動機づけが強いと述べている。前述した「中学生の探究型学習に対する意識調査」からも生徒が主体的、探究的に学ぼうとする意欲が高いのは明らかであるので、子どもたちが持つ様々な興味や関心を活かしながらこの意欲を強化することが必要である。

そのためには、まず、様々な種類の題材に触れさせることである。『中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説外国語編』では、日常生活、歴史、自然科学などが扱う題材の例として挙げられ、これらの題材を通して豊かな心情を育んだり、自国や他国の文化に対する理解を深めたり、国際協調の精神を養ったりできるようにすることが必要であると述べられている。英語の目標に沿うことはもとより、このような学びを通して子どもの興味・関心の入り口を拓け、自主的な学びを支えることが大切である。

次に、子どもの発達段階を意識した授業内容にすることである。特に言語活動においては、ゲーム的な活動や練習的な活動に終始しないことが大切である。中学校の他教科での学習内容や活動方法を見据えた授業であったり、逆に英語の学びが他教科で活かされる授業であったりすることが望ましい。

加えて、言語活動においては領域統合型の活動が子どもの意欲を強化する方法であると考えられる。『中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説外国語編』では、聞いたり読んだりした情報の中からどの情報を取り上げ、またどの情報が自分の思いや考えを伝えるために活用できるのかについて考えさせることが重要であると述べられている。「何を、どう伝えるか」をはっきりさせた上で生徒たちが求めている「協同的な学習」「意見の交流」を取り入れた授業にしていけば、より深い学びが得られる授業になるだろう。

ただし、このような授業構成にした場合、意味内容に意識が向くため、文法形式などがおろそかになる可能性があることは「中学生の探究型学習に対する意識調査」からも明らかであるので、どのような英語の力を身に付けるべきなのかを十分に意識し、適切に指導していかななくてはならない。

(2) 授業の概要

学年 : 3 年

題材 : 『NEW HORIZON English Course 3』(東京書籍, 2015), Unit 2 “From the Other Side of the Earth”, pp.26-27

テーマ : アマゾン川や熱帯雨林の恩恵と環境問題

課題 : ブラジルについて初めて知ったことや驚いたことを伝えよう

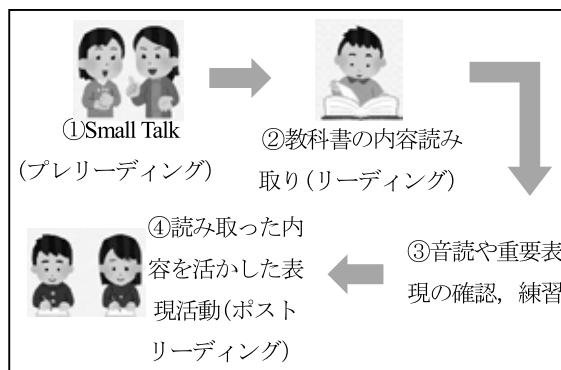


図 5 大まかな授業の流れ

本授業のテーマは中学生にとってなじみのあるものではないが、ブラジルに関しては知っていることがいくつかあるはずである。このような「知っていること」と「知らないこと」のギャップをうまく生かしながら課題に取り組ませ、授業を通して新たな気づきや学びがあるようにしたい。

授業デザインに関しては、「平成 31 年度 確かな学力を育むための「探究型学習」推進ハンドブック」(山形県教育委員会, 2019)で述べられている「広げながら考える」「深めながら考える」「組み立てながら考える」の考え方を活かし、授業をプレリーディングーリーディングーポストリーディングの 3 つに区分する。この際、四技能をバランスよく配分することを目指す。

英語力に関しては、言語材料である現在完了(継続)の活用・習得だけでなく、文章構成と内容の工夫を指導することで、「英語らしい伝え方」で自分の思いや考えを伝えられることを目指す。

(3) 授業の実際

①Small Talk(プレリーディング)について

発問 1 : What is Brazil famous for?

予想される反応 : soccer/coffee/samba

学習形態 : 生徒－生徒 及び 教師－生徒の interaction

ブラジルについて知っていることを共有する。生徒はそれ程多くのことを知らないはずである。また、アマゾン川などは、知ってはいても英語で言えないと考えられる。このような「あまり知らない」「うまく言えない」を後の活動の動機づけとして活用したい。

発問 2 : 今日読む文には、ブラジルについての驚くような内容が書かれています。それはどんなことでしょうか。

上述の活動を踏まえた上で問い立てし、なぜ教科書の文を読むのかを明確にする。教師からの「読みましょう」ではなく、生徒の「読みたい」を引き出したい。

②リーディングについて

学習活動：教科書の読み取り

教師の支援：調べたり、生徒同士で話し合ったりしても分からない単語や文の解説を個別に行う。

教師からの発問や指示は最小限にし、生徒が題材にじっくり向き合えるようにする。文中の "Its water power produces about eighty percent of Brazil's electricity." や "That forest produces about twenty percent of the world's oxygen." が驚きを持って受け止められるようにしたい。

③表現活動(ポストリーディング)について

学習活動1：5文程度の essay を書く

教師の支援：文章構成と内容の指導をする。

Vance(2009)は、コミュニケーションで最も大事なことは自分のメッセージを相手に上手に伝えることで、その成否は「メッセージデザイン」にあると述べている。Vance が提唱するメッセージデザインは、CLAIM→REASON→EXAMPLE で構成されている。このメッセージデザインを活用し、どう表現すれば意味内容をよりの確に伝えられるかを指導したい。

内容に関しては、「どんなことに驚いたか」「なぜ驚いたのか」「自分の生活との関わりは何か」について書くこととする。その際、教科書の文の引用の仕方、理由の述べ方、例の取り入れ方なども具体的な表現(the textbook says that.../ for example/ if/ when/ in my opinion など)を用いて指導する。

学習活動2：自分の書いた essay の内容を発表する。

教師の支援：発表の見取りを行う。内容に関しての質問を適宜する。

正確さや流暢さ以上に、意味内容を適切に伝えることを意識するよう指導したい。また、リスニングにおいては、話者の文章構成を意識させ、内容理解に役立てるよう指導したい。

4 おわりに

本研究の成果は、生徒のニーズを活かしつつ、テーマに深く迫る授業の提案ができたことである。「身に付けさせたい」ことだけでなく、生徒たちの「身に付けたい」を意識した学習者中心の授業づくりをすることで、どのような活動が思考力や表現力を引き出す可能性があるのかが分かってきた。

今後の課題としては、探究的な学びを取り入れた授業をいかに継続するかにある。そのためには言語材料を中心にした1時間完結型の授業ではなく、単元を通してテーマについて学べるような授業にしていかなければいけない。加えて、そのような授業を1年を見通して行う必要がある。長いスパンで授業づくりを考え、その中で繰り返し考えさせてこそ生徒達は探究のスタイルを身に付け、その成果を実感するであろう。

引用文献

- 笠島準一・関典明 ほか(2015)『NEW HORIZON English Course 3』, 東京書籍
国立教育政策研究所(2019)「平成 31 年度 全国学力・学習状況調査 解説資料 中学校英語」,
http://www.nier.go.jp/19chousa/pdf/19kaisetsu_chuu_eigo.pdf(最終閲覧日 2020 年 1 月 30 日)
国立教育政策研究所(2019)「平成 31 年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査の結果(概要)」,
<http://www.nier.go.jp/19chousakekkahoukoku/19summary.pdf>(最終閲覧日 2020 年 1 月 30 日)
文部科学省(2018)『中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説外国語編』, 開隆堂出版株式会社
白井恭弘(2012)『英語教師のための第二言語習得論入門』, 大修館書店, pp. 14-15
山形県教育委員会(2019)「確かな学力を育むための「探究型学習」推進ハンドブック」
William A. Vance・神田房江(2009)『ドクター・ヴァンスの英語で考えるスピーキング』, ダイアモンド社, pp. 175-210

English Lesson Planning through Inquiry-Based Learning: Fostering Junior High School Students' Ability to Think, Make Decisions and Express Themselves, and Become Proactive Learners
Takayuki WATANABE